

金ETF証拠金取引 WEEKLY REPORT

2022/11/21号

一般社団法人日本貴金属マーケット協会 池水雄一



【ゴールドマーケットの現状】

FRB高官タカ派発言でゴールド1750ドル割れ

SPDR Gold Shares円建価格

ゴールドとドルインデックス



前々週のCPIの下落により始まったドルと長期金利の下落でゴールドは大きく上昇したわけですが、前週はその勢いに陰りが見えてきました。その大きな要因はFRB関係者がタカ派的な発言を繰り返したことにあります。前々週が1780ドルの一週間の高値引けになったのと対照的に前週は1749ドルの一週間の安値となりました。テクニカル的にもRSI（相対力指数）が買われ過ぎである70まで上昇していたことから利食い売りがしやすい環境にあったと言えます。その中で特に注目されたのは、ブロードセントルイスFRB総裁の発言です。金融政策がまだ、十分な引き締め水準になく、さらなる引き締めが必要になると主張し、政策金利FF金利誘導目標5%-5.25%が下限と見ており、もし、インフレが上昇し続けたら、引き締め水準はFFで少なくとも5%で、最悪7%の可能性を示唆しました。この発言がドル買いを加速させ、長期金利は上昇、ゴールドは売られて節目とみられていた1750ドルを割り込んで一週間が終わりました。前々週の引けの、ひょっとしたら1800ドル越えも、という強気の雰囲気とは正反対の終わり方となりました。1620ドルからの急激な上昇はショートカバーによるところが大きく、まだ完全な強気相場とは言えないという見方が増えてきています。今後の流れを決めるのは今後インフレがどうなるか、という点にかかっているようです。ゴールドに強気派は、インフレは確実に収まりつつあり、それによりFRBの金利上げもPivot（転換点）を近いうちに迎え、金利は反転、ゴールドは上昇という見方。一方弱気派は、インフレはまだFRBのここまでの金利政策では抑えきれずさらなる金利上昇が必要だという見方で、その結果はゴールドが再び下落するというシナリオです。今後のインフレ動向がゴールドの短中期的な行方を決めることとなります。

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクレマー）をお読み下さい。

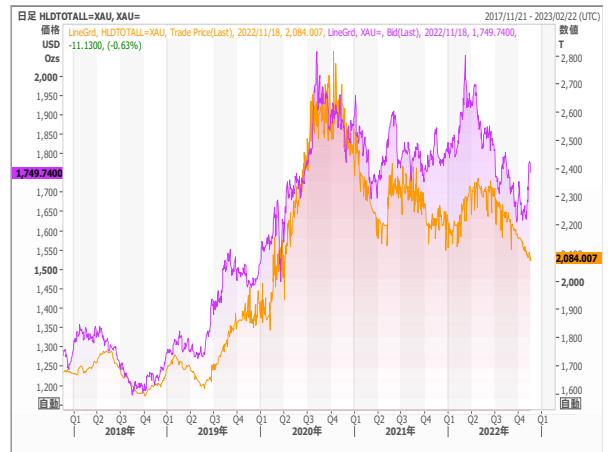
金ETF証拠金取引|WEEKLY REPORT

【マーケット・トピック】

「シルバー：広がる現物不足」

マーケットに流通しているシルバーが大きく減少しており、シルバーETFから引き出された現物の量は4月下旬のピークから3175トン。Comexの倉庫在庫も大きく減少、年前半の11000トンから9291トンと1700トンものシルバーが引き出されています。Loco London Silver Account（世界中の銀行がロンドンのクリアリングバンクに保有するシルバーの口座の総残高）のシルバーも年初から9600トンもの減少となり、これはLBMAが2016年7月からこの統計の発表を初めて以来の少ない数字となっています。もしこの調子でシルバーが引き出されていくとすれば、Loco Londonのシルバー在庫はETFの保管分を除けば、来年2023年半ばにでもゼロになってしまうペースです。ETF、ComexそしてLoco Londonを合計すると14000トンものシルバーが欧米の投資在庫から引き出されたということになります。年間のシルバーの鉱山生産量が26000トン前後であることを考えるとまさにその半分以上の量のシルバーが動いたことになり、これは非常に大きな現物の動きであると言えます。

これらのシルバーの在庫減少の原因として主に米国とドイツのシルバー地金とコインの現物投資の盛り上がり、インドの輸入増が上げられます。米国ではイーグルシルバーコインの価格はシルバー価格よりも15ドルも高く、70%近いプレミアムとなっており、それでも生産が間に合わず現物不足状態が続いています。インドの9月のシルバー輸入量は1700トンというおそらくは歴史的記録となる数量となり、10月もそれよりは減るとはいえ、依然として相当な量だとみられています。ただ10月はヒンズー教最大のお祭りであるディワリ（光の祭り）があり、この日はゴールドを買う特異日であるために、インドの買いはシルバーよりもゴールドにうつったと思われます。このようにシルバーの現物投資需要は非常に強く、供給不足も相まって、Comex倉庫やETFで保管された現物、そしてLoco Londonの流通在庫の現物が、米国、ドイツそしてインドを中心に移送されているのが現状です。現物不足がシルバー価格の底上げの要因の一つになっています。



Gold ETF残高とゴールド価格



米長期金利とゴールド



円建てゴールドとドル円

本資料のご利用については、必ず巻末の重要事項（ディスクリーマー）をお読み下さい。

【ディスクレーム（免責条項）】

本レポートは、本取引所が一般社団法人日本貴金属マーケット協会から提供を受けて、公表しているものであり、本レポートの内容に関する一切の権利は、一般社団法人日本貴金属マーケット協会に帰属いたします。本取引所は、本レポートの正確性、完全性、適時性等を保証するものではありません。また、本取引所は、本レポートを用いて行う一切の行為及び本レポートに基づいて被った損害について、何ら責任を負うものではありません。

株式会社東京金融取引所

本レポートは、一般社団法人日本貴金属マーケット協会（以下、弊社）が、投資判断の参考となる情報提供を目的に作成したものです。金融商品売買の勧誘を目的としたものではありません。投資に関する最終決定は、投資家ご自身の判断で行って下さい。本レポートは、弊社が信頼できると判断した情報源からの情報に基づき作成したものです。情報の正確性、安全性を保証するものではありません。また、本レポートに記載された見解や予測は、本レポート発行時における弊社の判断であり、全部または一部が予告なしに変更されることがあります。本レポートを使用することに生ずるいかなる種類の損失についても、弊社は責任を負いません。本レポートの著作権は、原則として弊社に帰属いたします。本レポートにおいて提供される情報に関して、弊社の承諾を得ずに、当該情報の複製、販売、表示、配布、公表、修正、頒布または営利目的での利用を行う権利を有しません。

【会社名】 一般社団法人日本貴金属マーケット協会（Japan Bullion Market Association）

【所在地】 〒103-0016 東京都中央区日本橋富沢町11-15-503

【URL】 <http://jbma.net>

【E-mail】 info@jbma.net

池水雄一（いけみず・ゆういち）プロフィール

1962年生まれ兵庫県出身。1986年上智大学外国語学部英語学科卒業後、住友商事株式会社入社、その後1990年クレディ・スイス銀行、1992年より三井物産株式会社で貴金属チームリーダーを務める。2006年よりスタンダードバンク東京支店副支店長、2009年に同東京支店で支店長に就任。2019年9月より日本貴金属マーケット協会（JBMA）代表理事に就任。一貫して貴金属ディーリングに従事し、世界各国のプリオン（貴金属）ディーラーでブルース（池水氏のディーラー名）の名を知らない人はいない。

最新情報は
ツイッターで

